



おひいすらん



このお正月に1人でソウルへ遊びに行ってきました。ソウルではT-money (SuicaのようなICカード) がだいぶ前から普及していて、電車もバスもコンビニでの買い物も、それから電車の中での携帯の充電や街頭募金までも、これ1枚で用が足せるようになっています。私が乗ったバスでもお金を入れる箱は見当たらず、若者からお年寄に至るまで、乗客の100%がT-moneyを使っていました。また、かたちも単なるカード型だけではなく、携帯ストラップとして使える小さくてかわいいデザインのものや、腕時計型のものなど、いろいろな種類が存在します (日本も早く携帯ストラップ型のSuicaを出してほしいものです)。そんな進化した一面がある一方で、地下鉄の改札口の手押しバーは平気で壊れていて、女子高生がバーの下をくぐって改札を通り抜けたりしている姿もよく見かけます。また、切符の自動販売機もお札が通らず、何度入れても戻ってきてしまうこともしょっちゅうでした。そんなものすごくデジタル化が進んだ部分とものすごくアナログな部分のギャップが面白くて毎年韓国に通っています。

ところで、今回東大門近くのわりと大きな書店に行ったのですが、コミックコーナーには日本のマンガが所狭しと並べられ

ていました。「ドラえもん」や「クレヨンしんちゃん」はもちろんのこと、いま韓国で流行っているというワインを題材にした「神の雫」や「のだめカンタービレ」「DEATH NOTE」、その他私が知らない多くの少年少女マンガが韓国語に翻訳されてコミックコーナーの中でも一番目立つ場所に平積みされていました。そういえば「神の雫」や「のだめカンタービレ」はとてもマニアックな業界を描いたマンガです。このようなマニアックなマンガが流行るとは、韓国もある意味マニアックな文化になってきた国だからというだけではなく、いま秋葉原が世界中からの観光客を集めているように、もはや日本のマニアック文化は、世界で受け入れられる時代になったのだと実感しました。

「のだめ」を読んでクラシックに興味を持った人や、「ヒカルの碁」を読んで囲碁を始めた子供が急増したことを考えると、いまこそ情報処理学会もこのマニアックさを前面に出して、まずは女性研究者を主人公にしたマンガを出したりすると、情報処理という学問にも興味を持ってもらえ、この業界を目指す若者も増えるのではないだろうかと思ったりしました。

(後路啓子／会誌編集部門)



■ 各種問合せ先 ■

(社) 情報処理学会 (本部) ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担 当	E-mail	Tel (ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会 員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会、会費、変更連絡、退会、在会証明、会員証、会費等口座振替、海外からの送金
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容、広告掲載、転載許可、出版、著作権
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌（ジャーナル）の編集・査読
調査研究／教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録、研究発表会、シンポジウム、研究グループ、論文誌（トランザクション）
■ 事業部門			
事 業／国 際	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会、FIT、連続セミナー、プログラミング・シンポジウム、国際会議、IFIP 委員会
■ 管理部門			
総 務	somu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会、支部、役員選挙、名誉会員
経 理	keiri@ipsj.or.jp		出納、送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画、電子化委員会、電子図書館、IPSJ メールニュース
図 書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■ 情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp		標準化フォーラム 〒 105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、11月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「変わりつつある情報教育」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■「コンピュータはプログラム通りに動いている」「市販のゲームもプログラムで動いている」という児童の感想から、早くにこのような体験ができることは良いと思いました。「人間ができてコンピュータができないこと」の議論も取り入れてほしいと思います。
(匿名希望)

■李元揆先生の記事を拝見しました。最後の段落の「情報教育カリキュラムを、コンピュータ科学を基礎とした形に再編すべき」という論旨は前提条件が付くべきと思いました。単なる操作法教育ではよくないのは当然ですが、現在の高校の教科「情報」の内容には「メディア・リテラシー」と「情報科学」が混合しており、この2つの中では「メディア・リテラシー」の方が優先順位が高いと考えます。アメリカやイギリスではプレゼンテーションなどメディア・リテラシーに関する教育は別に用意されています。2つを独立させるならよいことですが、今の日本の教科「情報」を情報科学中心にした方がよいとは思えません。
(志田晃一郎)

■教育問題は難しい問題であるが、文科省は教育改革にもっと力を注いでほしい。ただし、その方法についてはこれまでのような官僚的な改革ではなく、ボトムアップ的な改革ができる仕組みを検討してほしい。特に、情報教育については若手教員や若手研究者の意見、実践事例を取り入れるべきではないか。
(匿名希望)

■小・中・高等学校における教育実践事例から大学での取り組みに至るまで、授業に直結する具体的な事例が多く取り上げられており、とても読み応えがありました。これだけ内容が充実し、読みやすくまとめられた特集は久しぶりです。ぜひ、第2弾を希望します。
(匿名希望)

■興味深く拝読させていただきました。もはや日常生活においてコンピュータの利用は不可欠になっている現在、技術的な学習だけではなく、ツールとしてコンピュータを使う教育も重要です。ネット上のマナーやルールについても、早い段階から学ばせる必要があると考えていますが、学校におけるPC環境はいまだ貧弱と言わざるを得ません。俗に言われる100ドルPCが必要なのは、もしかすると日本なのかもしれません。
(匿名希望)

■教育（情報学）に携わる者として、大変参考になりました。高等学校の情報の教員免許取得を目指している学部学生（数学科）にも一読を薦めました。J07の記事も、JABEE対応カリキュラムの策定に取り組んでいる一教員として、今後の授業運営に際して、

大変参考になりました。

(水野光朗)

■「小学校における教育実践事例」では、自分が小学生くらいのころ（三十数年前）に、プログラムに従って動く自動車のおもちゃに触れたことがあったのを思い出しました。プログラムとはいってもオルゴールのような機械的なもので、カード側面の凹凸による操舵制御と、パンチ穴による動力制御でしたが、そういうものに触れたのが今の道に進んだことに影響を与えているのかもしれませんが、「大学での情報入試」では、「手順」が自然科学から忘れられているというのに驚きました。大学卒業後二十数年経ってくたびれた頭でも、実施例の問題をさして難しいと感じなかったのは、暗記的知識を問うものではなく、基礎的な考え方が身に付いているかを問う良い問題だからだと思います。うちの会社（製造業）も、「手順」構築を問うような問題を入社試験に出せばよいのになどと思いました。
(匿名希望)

■興味を持って読みました。特に、小・中・高等学校での実践事例は、どのようなことをどのようにして教えているのか実情を知ることができ、興味深かったです。大学で、情報の教員免許を取るために必須とされている授業を教えていても、中学・高校の情報の授業の実際を知らない、といったことが多いと思われ、今回の特集は参考になるものであったと思います。
(匿名希望)

■興味深く読ませていただきました。小中高での情報教育のレベル設定が現場教員に任せきりのようにも感じ、あまり差異を感じませんでした。小学校の科目「算数」が、中学校以降は「数学」になり抽象的な内容も扱うように、情報教育についてもより高度な内容を指向しないと、生徒の目には情報工学・情報科学の分野が魅力的に映らないでしょう。学問としての深淵さを、特に高等学校以降の生徒には感じさせる必要があると思います。昨今話題の超低価格ノートパソコンを利用すれば、今後は教室での本格的なコンピュータ言語の教育もできるのではないのでしょうか。
(匿名希望)

■小学校から大学までの情報教育について、大学の情報教育を担っているものとして読ませていただいた。小、中ではスーパー教員に頼りきった少人数だけの優れた教育、高校での形式だけの必修化、大学でまたまた基礎から。こんな教育で日本は大丈夫なのだろうかと憂えてしまう。今後、情報は文化的生活を送る上で不可欠の科目となっている。国語、算数（数学）と同様に義務教育の科目として小学校1年生からしっかりしたカリキュラム化が必要ではないか。早く取り組まないと10年後はもっと情報格差が広がってしまうことであろう。
(匿名希望)

■興味深く読ませていただきました。もし自分が教師だったら、小学生、中学生、高校生に何を教えたいかと、考えてしまいました。最近、自分が担当している仕事の業務フローを書けない大人が多いと感じます。子供のときにフローチャートの書き方を教えて、自分で意識せずに行っている思考や作業のプロセスを、1つ1つ分解して把握したり分析できる力を付けさせるのも大切なことだと思います。
(匿名希望)

■小学校の情報教育でロボットを使った授業が楽しそうだった。全国どここの小学校でもこのような授業を受けることができればよいと感じた。
(匿名希望)

■小学生にネットワークの危険性体験をさせているという記事を読み、これからの時代は小さいころからこのような教育が必要だと感じた。
(匿名希望)

■ IT 業界は全学部全学科を対象に採用されていることが多いように思います。正規のコンピュータ教育を受けていない人が高度なことを要求されて事故を起こしたり、正規のコンピュータ教育を受けている人がソフトウェア開発を担当せず管理業務で技能を伸ばせずにいると聞きます。身の回りでは知識レベル技能レベルの不均一さから、計算機にまかせて楽にできるところができずに、非効率にならざるを得ないことがあります。少子化、大学全入という時代ですから、就職してからでも職業にあった教育を大学で受けられれば、大学固有のカリキュラムの良さというものが評価され、業界がよい方向にまわっていくのではないかと思います。

(匿名希望)

■ 「トップエスイー」と比べて読むと、教育・実業の現場と、アカデミーとの温度差がよく分かる。現場で求められているのは仕様の記述であるが、決して形式仕様記述やその検証ではない。

(匿名希望)

■ 理科系を専攻する人口が少なくなっている中、日本、海外の情報教育はどうかと思っていましたので大変参考になりました。また、日本ではプログラミングをする必要があるかという議論がありますが、実際の現場からの経験、海外の内容からしても、必要な内容の1つと思います。イスラエル、インド、中国、韓国などではITは国策でもありITの教育に力を入れています。日本は、トップエスイーといったことも必要ですが、育成される人数は限定されており、残念ながら現実的な解決とはいえないと思います。学校教育の内容をより具体的にし、先生への教育の時間を提供し、内容も確立する必要があると思います。情報処理学会からの2008年のカリキュラムの提言を期待しています。

(匿名希望)

その他の記事につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■ 解説「トップエスイー：サイエンスによる知的ものづくり教育」について：これまで、大学での知識と、社会人に必要な知識にギャッ

プを感じていた。この記事ではそのギャップを埋めるべく、幅広い実用的な知識の習得を目指している。その点で非常に共感できた。

(匿名希望)

■ 報告「Cell スピードチャレンジ 2007」について：さまざまなプログラムコンテストの中でも日本発のハードウェアを使ったコンテストは特徴がある。今回の特集の情報教育とうまく絡めて日本発の情報教育が構築できないだろうかと思った。

(匿名希望)

■ 解説「チェッカー解明秘話」について：大変興味深く拝読させていただきました。両プレイヤーが最善手を指せば引き分けになる、ということが計算機によって証明されたこと知り、現在の計算機と証明の技術がそれほどのレベルに到達しているのか、と新鮮な驚きを感じました。引き分け証明におけるGHI問題などアルゴリズム的にも面白そうと思いました。

(桶屋勝幸)

■ 解説「ペタスケール時代に向けたハイパフォーマンスコンピュータの動向」について：昨今ニュース等で、スパコンで日本の技術が乗り遅れていると取り上げられており、タイムリーであった。ペタスケールに向けたさまざまな問題点も分かりやすく書いてあった。国家プロジェクトで地球シミュレータをつくり長期にわたり世界最速を誇ってきたのははるか昔になってしまった。最先端研究全般に当てはまることだが、継続と競争、国際的な競争だけでなく国内での競争が欠かせない。継続できて、さらに複数で競争できるプロジェクトが不可欠ではないかと思う。

(匿名希望)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■ SOA の有用性についての検証。

(匿名希望)

■ IEEE802 の標準化について取り上げてほしい。

(匿名希望)

【本欄担当 屏雄一郎、酢山明弘／書評・ニュース分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」<URL:<http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>> に掲載していますので、そちらも参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>>

応募先 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部門
E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax:(03)3518-8375
<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4902.html>

ご意見をお寄せ
ください!!



IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
2008年				
	東海支部「平成19年度学生論文奨励賞」募集案内 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/	3月14日（金）		
	論文誌「メディアインタラクシオン研究の発展」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/08-TU.html	3月20日（木）		
	論文誌「メディアインタラクシオン研究の発展（テクニカルノート）」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/08-TU.html	3月20日（木）		
	論文誌「新しい時代を切り拓くモバイル通信と高度交通システム」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-C.html	3月31日（月）		
	論文誌「日常生活におけるコラボレーション支援技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-Z.html	4月11日（金）		
	論文誌「サービス融合を支えるネットワークアーキテクチャの新展開」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-V.html	5月12日（月）		
	論文誌「音楽情報処理」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-D.html	5月12日（月）		
	論文誌「組織における情報システム開発」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-X.html	5月15日（木）		
	論文誌「柔らかなサービスを支えるインターネット技術／分散システム運用・管理技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-W.html	5月28日（水）		
	論文誌「音声ドキュメント処理」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-Y.html	5月30日（金）		
2月16日（土）～	第93回コンピュータと教育研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/CE93.html	12月21日（金）	当日のみ	東京農工大学 小金井キャンパス
2月17日（日）				
2月18日（月）～	第130回グラフィクスとCAD研究発表会	12月21日（金）	当日のみ	東京大学柏キャンパス
2月19日（火）	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/CG130.html			
2月19日（火）	東海支部主催講演会「データの可視化－可視化技術とその応用研究の紹介－」 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/			名古屋大学（名古屋市）
2月22日（金）	北陸支部主催研究講演会「新人・中堅への技術研修から見えるソフトウェアエンジニア像」・「組込みシステム開発におけるモデル駆動開発（MDD）の活用ポイント」 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html		参加無料 非会員参加可	北陸先端大 （石川県能美市）
2月29日（金）	ITS産業フォーラム http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ITSforum.html		2月22日（金）	化学会館会議室 （御茶ノ水）
3月3日（月）～	インタラクシオン2008	11月26日（月）	2月15日（金） 事前登録締切	学術総合センター
3月4日（火）	http://www.interaction-ipsj.org/			
3月3日（月）～	第12回バイオ情報学研究発表会	1月21日（月）	当日のみ	九州大学伊都キャンパス
3月4日（火）	https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/BIO12.html			
3月4日（火）～	第103回情報システムと社会環境研究発表会	1月7日（月）	当日のみ	専修大学 神田キャンパス
3月5日（水）	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/IS103.html			
3月5日（水）～	第44回モバイルコンピューティングとユビキタス通信・第17回ユビキタスコンピューティングシステム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/MBL44UBI17.html	1月4日（金）	当日のみ	慶應義塾大学 三田キャンパス
3月5日（水）～	第169回計算機アーキテクチャ・第114回ハイパフォーマンスコンピューティング合同研究発表会（HOKKE-2008） http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ARC169HPC114.html	1月7日（月）	当日のみ	北海道大学
3月6日（木）				
3月5日（水）～	第68回数理モデル化と問題解決研究発表会	1月9日（水）		道後温泉 ホテル椿館
3月6日（木）	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/MPS68.html			
3月5日（水）～	第151回知能と複雑系研究発表会	1月23日（水）	当日のみ	北海道 定山溪ビューホテル
3月7日（金）	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ICS151.html			
3月6日（木）～	第48回分散システム／インターネット運用技術・第26回高品質インターネット合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/DSM48QAI26.html	12月28日（金）	当日のみ	北陸先端科学技術大学院大学
3月7日（金）				
3月6日（木）～	第134回マルチメディア通信と分散処理・第40回コンピュータセキュリティ合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/DPS134CSEC40.html	1月11日（金）	当日のみ	国際電気通信基礎技術研究所
3月7日（金）				
3月6日（木）～	第60回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/AVM60.html	1月15日（火）	当日のみ	沖縄セルラー電話（株）
3月7日（金）				
3月7日（金）	第32回高度交通システム研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ITS32.html	12月28日（金）	当日のみ	慶應義塾大学新川崎タウンキャンパス
3月7日（金）	第117回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/AL117.html	1月7日（月）	当日のみ	広島市立大学
3月7日（金）～	第9回エンタテインメントコンピューティング研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/EC9.html	1月7日（月）	当日のみ	香川大学工学部
3月8日（土）				
3月10日（月）～	ネットワーク生態学研究グループ 第4回シンポジウム http://www.jaist.ac.jp/~yhayashi/NetEcoG_top.html		定員になり次第	京都産業大学
3月11日（火）				
3月10日（月）～	第162回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/CVIM162.html	12月25日（火）	当日のみ	北陸先端科学技術大学院大学
3月11日（火）				
3月12日（水）	第19回ゲーム情報学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/GI19.html	1月12日（土）	当日のみ	東京工科大学

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
3月12日（水）～ 3月13日（木）	第70回全国大会サテライトイベント「ワクワクIT@あきば2008」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/70kai/index.html			秋葉原コンベンション ホール
3月13日（木）～ 3月15日（土）	第70回全国大会 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/70kai/index.html			筑波大学
3月17日（月）～ 3月18日（火）	第68回プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/PRO68.html	1月17日（木）	当日のみ	日本アイ・ビー・エム （株）東京基礎研究所
3月17日（月）～ 3月18日（火）	第159回ソフトウェア工学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/SE159.html	1月22日（火）	当日のみ	化学会館（御茶ノ水）
3月19日（水）～ 3月21日（金）	第24回システム評価研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/EVA24.html 第67回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/GN67.html	1月21日（月）	当日のみ	広島大学情報メディア 教育研究センター本館 東京工科大学
3月27日（木）～ 3月28日（金）	第134回システムLSI設計技術・第8回組込みシステム 合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/SLDM134EMB8.html	1月22日（火）	当日のみ	屋久島 環境文化村セン ター
3月27日（木）～ 3月28日（金）	第184回自然言語処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/NL184.html	2月15日（金）	当日のみ	情報通信研究機構 （NICT）
3月28日（金）～ 6月11日（水）	第90回情報学基礎第・65回デジタルドキュメント合同研究会 発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/FI90DD65.html The 4th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2008) http://www.icmu.org/icmu2008/	1月28日（月）	当日のみ	専修大学神田校舎
6月11日（水）～ 6月13日（金）	先進的計算基盤システムシンポジウム（SACIS2008） http://www.hpcc.jp/sacsis/2008/	1月22日（火）		つくば国際会議場
7月9日（水）～ 7月11日（金）	マルチメディア、分散、協調とモバイル（DICOMO2008） シンポジウム http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/DICOMO2008.html	3月10日（月）		北海道 定山溪ビューホ テル
7月28日（月）～ 8月1日（金）	SAINT2008 International Symposium on Applications and the Internet http://www.saintconference.org/			フィンランド
8月21日（木）～ 8月22日（金）	4th International Conference on Collaboration Technologies （CollabTech2008） http://www.collabtech.org/			和歌山県 （アバロン紀の国）
9月2日（火）～ 9月4日（木）	FIT2008 第7回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2008/index.html			慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
11月25日（火）～ 11月27日（木）	IWSEC2008 International Workshop on Security http://www.iwsec.org/			かがわ国際会議場
2009年				
	東海支部学生研究発表会助成 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/	2月28日（土）		
3月10日（火）～ 3月12日（木）	第71回全国大会			立命館大学びわこ・く さつキャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

【トピックス】

- 1月16日 平成19年度長尾真記念特別賞候補者推薦募集：推薦締切延長1月31日（木）まで
- 1月15日 人材募集情報（1月）更新しました
- 1月9日 「音楽情報処理」特集の論文募集
- 1月7日 「新しい時代を切り拓くモバイル通信と高度交通システム」特集の論文募集、「サービス融合を支えるネットワークアーキテクチャの新展開」特集の論文募集、「柔らかなサービスを支えるインターネット技術 / 分散システム運用・管理技術」特集の論文募集
- 12月14日 人材募集情報（12月）更新しました

【お知らせ】

- 1月17日 論文誌（ジャーナル）の論文査読状況を更新しました
- 12月13日 論文誌（ジャーナル）の論文査読状況を更新しました

人材募集 (有料会告)



申込方法：任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web 掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へ E-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限：毎月 15 日を締切日とし翌月号（15 日発行）に掲載します。

掲載料金：国公立教育機関、国公立研究機関 21,000 円（税込）
賛助会員（企業） 31,500 円（ 〃 ）
賛助会員以外の企業 52,500 円（ 〃 ）
*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金 4,000 円で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。

申 込 先：情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係） E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

***特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと**

■苫小牧工業高等専門学校情報工学科

募集人員 助教 1 名
専門分野 情報工学
担当科目 情報工学関連科目、実験・実習、特別研究など
応募資格 博士または技術士（情報工学）有資格者、高専の教育、学生指導および研究に熱意のある方
着任時期 平成 20 年 3 月 15 日以降
提出書類 履歴書、研究業績リスト、教育業績リスト、著書、論文などの原本およびその写し、高専教育に対する抱負など
応募締切 平成 20 年 2 月 25 日（17:00 必着）
照 会 先 情報工学科 学科長 森 重雄 E-mail:mori@jo.tomakomai-ct.ac.jp Tel(0144)67-8935
そ の 他 詳細は Web ページ（<http://www.tomakomai-ct.ac.jp>）を参照ください

■愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻情報工学コース

募集人員 教授 1 名
専門分野 情報システム
担当科目 専門領域に応じた授業と PBL（プロジェクト ベースド ラーニング）の授業（学部、大学院）、および全学で実施している共通教育科目など
応募資格 博士あるいは Ph.D. の学位を有し、博士後期課程の講義担当および研究指導が可能である方。教育・研究に熱意と能力を持つ方。専門分野において優れた研究業績を有する方。教育・研究における産学連携のコーディネータの役割を果たせる方。PBL の担当・指導ができる方。企業などにおいて、製品やシステムの研究開発などの実務の経験がある方
着任時期 平成 20 年 6 月 1 日以降のできるだけ早い時期
提出書類 履歴書、業績リスト、主要論文別刷（3 編以内）、これまでの研究概要と今後の研究計画・抱負（1500 字程度）、これまでの教育経験と教育面での抱負（1000 字程度）、これまでの実務経験（期間、内容、プロジェクトにおける役割など）、応募者について所見を求め得る方 3 名の氏名・役職・連絡先、そのうち 1 名の推薦書
*提出書類の書式に関する参考資料を下記 E-mail アドレス宛にご請求ください
応募締切 平成 20 年 3 月 31 日（必着）
送付先／照会先 〒 790-8577 愛媛県松山市文京町 3 愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻 情報工学コース長 小林真也
E-mail:koubo01@cs.ehime-u.ac.jp Tel(089)927-8540 Fax(089)927-9973 「教員応募書類在中」と朱書き簡易書留
*応募書類は返却いたしません
そ の 他 書類審査の後、面接を行います。なお、面接の際の旅費などの支給はありません
Web ページ（<http://www.ehime-u.ac.jp/ippan/kobo/index.html>）に掲載されている公募案内もご確認ください

■愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻情報工学コース

募集人員 准教授 1名
 専門分野 画像情報処理, 知識情報処理, ニューラルネットワーク
 担当科目 上記専門分野に関連する学部・大学院の講義および学生実験, 共通教育科目など
 応募資格 教育と研究に熱意と能力があり, 博士あるいはPh.D.の学位を有する方. 博士後期課程担当研究指導補助教員資格(D合)以上の教育・研究実績を有する方(採用選考時に資格審査を行う)
 着任時期 平成20年6月1日以降のできるだけ早い時期
 提出書類 履歴書, 業績リスト, 主要論文別刷(3編以内), これまでの研究概要と今後の研究計画・抱負(1500字程度), これまでの教育経験と教育面での抱負(1000字程度), 応募者について所見を求め得る方3名の氏名・役職・連絡先, そのうち1名の推薦書
 *提出書類の書式に関する参考資料を下記E-mailアドレス宛にご請求ください
 応募締切 平成20年3月31日(必着)
 送付先/照会先 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3 愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻 情報工学コース長 小林真也
 E-mail:koubo02@cs.ehime-u.ac.jp Tel(089)927-8540 Fax(089)927-9973 「教員(准教授)応募書類在中」と朱書き簡易書留
 *応募書類は返却いたしません
 そ の 他 書類審査の後, 面接を行います. なお, 面接の際の旅費などの支給はありません
 Webページ (<http://www.ehime-u.ac.jp/ippan/kobo/index.html>)に掲載されている公募案内もご確認ください

■(株)豊田中央研究所

募集人員 (1)~(3)正社員 各1名
 (4)~(7)客員研究員(最長3年間の契約, 1年ごとの更新) 各1名
 職務内容 (1)自動車の環境理解・情報処理に関する研究
 (2)自動車の知能化に関する研究開発
 (3)生産技術, 品質保証にかかわる計測技術・システムの開発
 (4)センシング・認識・知能処理に関する研究
 (5)自動車レーダなど電波センシングシステムに関する研究開発
 (6)ITS情報通信システムに関する研究
 (7)車載システムの高信頼化
 応募資格 (1)計測, 情報, 電気・電子の分野において経験を有する修士以上の方
 (2)ドライバのセンシングに興味があり, 関連実務経験を有する修士以上の方
 (3)光学, 画像処理などによる計測(検査)技術の開発経験を有する学士以上の方
 (4)神経回路系の知識を有する修士以上の方
 (5)上記職務内容の経験を有する修士以上の方
 (6)安全システムのシミュレーション・開発に興味を有する修士以上の方
 (7)組込システムのアーキテクチャ/OS/ソフトウェアに関する技術分野での研究開発経験を有する修士以上の方
 着任時期 平成20年4月~(相談に応じます)
 提出書類 応募職種・職務内容を明記の上, 次の書類をお送りください:履歴書, 職務歴(研究実績), 論文リスト, 主要論文別刷(コピー可)
 応募締切 平成20年3月31日(順次選考)
 送付先/照会先 〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41-1 (株)豊田中央研究所 採用担当 羽田, 高野, 宮崎
 E-mail:saiyo@mosk.tytlabs.co.jp Tel(0561)63-6509 Fax(0561)63-5744
 そ の 他 Webページ (<http://www.tytlabs.co.jp/>)

■電気通信大学電気通信学部情報工学科

募集人員 准教授 1名
 所 属 コンピュータ学講座
 専門分野 インターネット応用, インタラクティブシステムなど
 担当科目 (1)電気通信学部情報工学科および大学院電気通信学研究科情報工学専攻の講義(基礎プログラミング, コンピュータグラフィックス, 専門分野に近い大学院科目など). これら以外に実験などの担当もあります
 (2)情報工学科卒業研究学生, 情報工学専攻大学院学生への研究指導
 応募資格 博士の学位を有し, 大学院博士前期課程の研究指導ができること. 研究, 教育に熱意があること.
 着任時期 平成20年7月1日以降のなるべく早い時期
 提出書類 履歴書(含連絡先E-mailアドレス), 研究業績リスト(次のように分類: 1. 著書, 2. 査読付き学術論文, 3. 国際会議論文, 4. 以降として, その他の論文, 招待講演, 解説, 特許, 外部資金獲得状況など), 主要論文別刷(5編, コピー可), 研究・教育に関する業績の概要と今後の計画(A4用紙4枚程度), 本人の所見が得られる方(原則として国内2名, 海外2名)の名前と連絡方法
 *なお, これらの原本一揃とともに, それらをA4サイズ(片面)にコピーしたものの1部を原本に付けてください. また, 選考結果のお知らせに使用しますので, 宛先を記した定形封筒(80円切手貼付)を同封してください
 応募締切 平成20年4月10日(必着)
 送付先 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学電気通信学部情報工学科 学科長 岩田茂樹 「コンピュータ学講座公募書類」と朱書き簡易書留 *提出書類は返却いたしませんので, あらかじめご承知おきください
 照会先 情報工学科コンピュータ学講座 教授 尾内理紀夫 E-mail:onai@cs.uec.ac.jp *郵便またはE-mailで連絡してください

■武蔵工業大学環境情報学部情報メディア学科

募集人員	准教授あるいは専任講師 1名(専任講師は任期付き(3年, 再任2年))
専門分野	知能科学, 知的情報処理, エージェント技術(対人・社会を含む), 感性情報処理
担当科目	エージェント技術, 人工知能, コンピュータ言語・システム(プログラミングなどの演習を含む), 事例研究, 卒業研究および関連する大学院講義など(予定)
応募資格	原則として採用時45歳未満, 博士の学位を有すること, もしくはこれと同等以上の学識・経験があること, 前記専門分野に関して研究業績を有すること, 学部学生および大学院生の研究指導能力を有すること, 環境情報学部の文理融合型教育研究活動に理解があり, 学生の指導・教育に熱意があること
着任時期	平成20年9月1日を原則とする
提出書類	履歴書(市販のもので可, E-mailアドレス記載のこと), 研究業績リスト(1. 著書 2. 査読付き学術論文 3. 国際会議論文 4. 査読付き発表 5. 査読なし発表 6. 特許 7. 獲得した外部資金 8. その他に分類し, 年代の新しいものから順に番号をつけること), 主要論文別刷(5編以内, コピー可)あるいは主要著書, 研究および教育業績の概要(A4用紙で各1枚程度), 所属学会および社会的活動状況(A4用紙で1枚程度), 着任した場合の教育・研究の計画と抱負(A4用紙で各1枚程度), 本人について照会可能な方(2名の氏名・連絡先・応募者との関係)
応募締切	平成20年4月10日(必着)
送付先	〒224-0015 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1 武蔵工業大学環境情報学部情報メディア学科 事務室 Tel(045)910-2663 「教員公募書類(知能科学)在中」と朱書きし必ず簡易書留 *応募書類は原則としてお返しいたしません
照会先	環境情報学部情報メディア学科 主任教授 奥平雅士 E-mail:okudaira-is@yc.musashi-tech.ac.jp
その他	詳細はWebページ(http://www.musashi-tech.ac.jp/footer/saiyo/)を参照ください 提出書類に含まれる個人情報, 選考および採用以外の目的には使用しません。なお, 書類選考の後, 面接, 模擬講義も行っています

■岩手県立大学ソフトウェア情報学部・研究科情報システム領域

募集人員	准教授または講師 1名
担当講座	組織情報システム学講座
専門分野	情報システム学, 組織論
担当科目	学部・大学院の「情報システム関連科目」, ならびに講座内の演習指導および修論・博論指導
応募資格	次の条件を満足する方: 上記の専門分野において博士の学位を有する方, または着任までに学位取得見込みの方, 大学院博士課程の研究教育指導が担当でき, 情熱を持って教育・研究・学生指導に当たれる方
着任時期	平成20年10月1日(それ以前の着任可)
提出書類	履歴書(学歴, 職歴, 学会活動, 受賞歴などを含む), 研究業績リスト(著書, 学位論文, 学術論文, 国際学会発表論文などに分類), 学位論文(コピー可), 主要著書・学術論文別刷(コピー可)と学位取得証明書, 教育または職歴に関する業績および教育に関する見解(1000字程度), 参考となる意見を伺える方2名からの推薦書と連絡先
応募締切	平成20年4月30日
送付先	〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村菓子152-52 岩手県立大学ソフトウェア情報学部長 菅原光政 「情報システム領域教員応募書類在中」と朱書きし簡易書留 *応募書類は返却いたしません
照会先	ソフトウェア情報学部事務室 E-mail:softjimu@ml.iwate-pu.ac.jp Tel(019)694-2500(ダイヤルイン)
その他	選考にあたっては書類・業績審査後, 面接を実施し決定します。選考結果は応募者ご本人に通知します



FIT2008 第7回情報科学技術フォーラム 査読付き論文・一般論文 発表募集案内

FIT2008 公式サイト <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2008/>

査読付き論文受付期間（予定）：2008年3月10日（月）～4月24日（木）

一般論文 受付期間（予定）：2008年5月1日（木）～5月30日（金）

会 期：2008年9月2日（火）～4日（木）

会 場：慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス（神奈川県藤沢市遠藤 5322）

○論文ページ数：2～4ページ ○講演時間：20分

※3ページ目以降はエクストラページ料金が必要です

電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ（ISS）並びにヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）と情報処理学会（IPSJ）とは、2002年から合同で毎年秋季に、「情報科学技術フォーラム（FIT: Forum on Information Technology）」を開催しており、2008年9月には第7回目を慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催します。

本フォーラムは、ISS ソサイエティ大会と IPSJ 全国大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきており、前回の FIT2007 では 853 件の論文発表が行われました。

皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

●申込み主要日程（予定）

※査読付き論文と一般論文では、登録申込/投稿受付開始時期が異なりますのでご注意ください。

■査読付き論文

登録申込/投稿受付開始：平成20年3月10日（月）

登録申込〆切り/査読用原稿の投稿〆切り：

平成20年4月24日（木）

査読の採否結果通知：平成20年6月23日（月）

■一般論文

登録申込/投稿受付開始：平成20年5月1日（木）

登録申込〆切り：平成20年5月30日（金）

カメラレディ投稿〆切り：平成20年7月4日（金）

※登録申込と原稿投稿は、すべてWebを通じて行って頂きます。上記のFIT2008公式サイトからお願い致します。

※登録申込、原稿投稿要領の詳細は、決定次第 FIT2008 公式サイトでお知らせ致します。

●査読付き論文

査読付き論文は、FIT 設立に伴い新たに導入された企画です。

査読者や読者に研究内容が十分に伝わるように、最大4ページに制限緩和された論文ページ数を活用して下さい。また、採択された論文の中から、査読会議において各分野の応募総数の5%を上限として優秀な論文を推薦、その中から船井ベストペーパー賞3件、FIT論文賞7件程度を選定し、表彰式（FIT2008 会期中）にて表彰いたします。船井ベストペーパー賞受賞論文には船井情報科学振興財団より賞金20万円、FIT論文賞受賞論文にはFIT推進委員会より賞金5万円を贈呈します。皆様、是非ともチャレンジして下さい。

なお、査読付き論文に投稿されて不採択となった場合には、一般論文として扱います。

※一部の研究分野では査読付き論文の募集を致しません。査読付き論文の募集を行う研究分野については、Web ページをご覧ください。

※これまで FIT 査読付き論文として採択された論文は、学会論文誌に掲載されているレター、テクニカルノート、ショートペーパー、研究速報等と同じ位置付けとしてまいりましたが、今後は「国際会議におけるカンファレンスペーパー扱い」へと位置付けの変更を行うこととなりましたので、御注意下さい。また、位置付け変更に伴い、採択論文が採録されていた「情報科学技術レターズ」の発行も終了します。採択論文につきましては各投稿分野の論文集分冊へそれぞれ収録されることになりますので、御了承下さい。

●一般論文

当該FITでの発表件数の1.5%を上限として、2008年12月31日現在で33歳未満の講演者（査読付き論文および一般論文）を対象に優れた発表を選定し、ヤングリサーチャー賞（賞金3万円）としてFIT2009の表彰式で贈呈します。

●問合せ先

105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館

社団法人 電子情報通信学会 集会事業部 FIT 担当 TEL. 03-3433-6691 FAX. 03-3433-6616 e-mail: ieicefit@ieice.org

2008年3月 秋葉原に日本を代表 するナショナルプロ ジェクトが集結!

情報処理学会 第70回全国大会サテライトイベント

ワクワクIT@あきば2008

入場無料

情報社会の未来を予感する2日間

2008年3月12日(水) 10:00 ~ 19:00

13日(木) 9:30 ~ 19:15

秋葉原コンベンションホール(秋葉原ダイビル2階)

主催: 情報処理学会 

<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/70kai/wakuwakulT/>

参加団体: 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 科学技術振興機構 戦略的創造事業本部(CREST) / 国立情報学研究所 産業技術総合研究所 グリッド研究センター / 情報通信研究機構 知識創成コミュニケーション研究センター / 北陸先端科学技術大学院大学 / 文部科学省 科学技術振興調整費「生活者支援のための知的コンテンツ基盤」 / 文部科学省「知的資産の電子的な保存・活用を支援するソフトウェア技術基盤の構築」 / 文部科学省 研究補助金 特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究」 / 文部科学省 リーディングプロジェクト「e-society 基盤ソフトウェアの総合開発」 / 情報大航海プロジェクト

ワクワクIT@あきば2008

情報社会の未来を予感する2日間

セッション：3月12日(水)

10:00-12:20 セッション1

「情報社会のディペンダビリティ」

(独)科学技術振興機構 研究開発戦略センター

13:00-15:00 セッション2

「21世紀のディペンダブルシステムに向けて」

(独)科学技術振興機構 戦略的創造事業本部 (CREST)

15:15-16:45 セッション3

「これからの研究環境を変える Cyber Science Infrastructure」

国立情報学研究所

17:00-17:45 セッション4

「学と産の連携による安心・安全・高信頼な基盤ソフトウェアの先進的開発」

文部科学省リーディングプロジェクト

「e-society 基盤ソフトウェアの総合開発」

18:00-19:00 特別セッション1

最新アキバ情報(仮)

セッション：3月13日(木)

9:30-10:15 セッション5

「ワクワクIT技術の創出@情報爆発時代」

文部科学省科学研究補助金特定領域研究

「情報爆発に向けた新しいIT基盤技術の研究」

10:30-12:30 セッション6

「文化を伝える・利用する

～知的資産のための技術基盤～」

文部科学省「知的資産の電子的な保存・活用を支援するソフトウェア技術基盤の構築」

13:00-15:00 セッション7

「ユニバーサルコミュニケーションの実現を目指して」

(独)情報通信研究機構

智識創成コミュニケーション研究センター

15:15-16:15 特別セッション2

「情報は我らを豊かにする

～セカンドライフサテライト中継～」

長尾真氏(国立国会図書館 館長)サテライト講演

16:30-18:00 セッション8

「暮らしを守る!法令工学って何だろう?」

北陸先端科学技術大学院大学

18:15-19:15 セッション9

「生活者支援のための知的コンテンツ基盤 ～意味に基づいて映像コンテンツを制作し利用する～」

文部科学省科学技術振興調整費

「生活者支援のための知的コンテンツ基盤」

2008年3月-秋葉原に、日本を代表するナショナルプロジェクトが集います。

「ワクワクIT2008@あきば」では、情報処理に関するナショナルプロジェクトの最前線を披露いたします。いずれも、現在進行中の先端プロジェクトです。皆様が未来社会へといざなうのは、日本を代表する研究者、技術者達。プロジェクトの現場では何が起こっているのか。そして近未来の情報社会はどのように変わろうとしているのか。研究・開発中のプロトタイプを持ち込んだデモンストレーションや、当事者が語る開発秘話を通じて、情報社会の未来を予感する2日間です。

「ワクワクIT@あきば2008」では、2種類のメニューをご用意して、みなさまに未来を予感していただきます。

プロジェクトセッション：研究・開発の最前線を知るトークセッション

プロジェクトショーケース：研究成果・プロトタイプを体感する実演・展示ショーケース

ショーケース

1. 国立情報学研究所
「Cyber Science Infrastructure: CSI で大きく変わるこれからの研究環境」
2. 北陸先端科学技術大学院大学
「法令工学で読み解く法律の健全性」
3. 文部科学省リーディングプロジェクト
「e-society 基盤ソフトウェアの総合開発」
「生産効率の向上・高信頼化・安全・便利をもたらす基盤ソフトウェア」
4. JST-CREST「実用化を目指した組み込みシステム用ディペンダブル・オペレーティングシステム」研究領域 JST-CREST「ディペンダブル VLSI システムの基盤技術」研究領域
「ディペンダブル VLSI Sディペンダブル組み OS」
5. 文部科学省「知的資産の電子的な保存・活用を支援するソフトウェア技術基盤の構築」
「文化を伝える・利用する
～知的資産のための技術基盤～」
6. 情報通信研究機構
知識創成コミュニケーション研究センター
「ユニバーサルコミュニケーションの実現を目指して(仮)」
7. 文部科学省科学技術振興調整費「生活者支援のための知的コンテンツ基盤」
「生活者支援のための知的コンテンツ基盤 ―意味に基づいて映像コンテンツを制作し利用する―」
8. 産業技術総合研究所 グリッド研究センター
「必要なときに必要なだけ - グリッド技術を用いた仮想データセンターと柔軟なSOA」
「地球を知るために世界をつなぐ - 地球観測グリッド GEO Grid」
9. 文部科学省科学研究補助金特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しい IT 基盤技術の研究」
「ワクワクする研究支援共通基盤プラットフォーム：オンリーワンを目指して」
10. 情報大航海プロジェクト
「情報大航海プロジェクト」

交通のご案内



JR 秋葉原駅 ————— 徒歩 1 分
東京メトロ銀座線 末広町駅 — 徒歩 3 分
東京メトロ日比谷線 秋葉原駅 — 徒歩 4 分
つくばエクスプレス 秋葉原駅 — 徒歩 3 分

会 期：2008年3月12日(水)10:00～19:00、
3月13日(木) 9:30～19:15

会 場：秋葉原コンベンションホール
(秋葉原ダイビル2階)

東京都千代田区外神田 1-18-13

入場料：無料

主 催：情報処理学会

問合せ：「ワクワクIT@あきば2008」事務局
70wakuwakuIT@ipsj.or.jp

URL：http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/
taikai/70kai/wakuwakuIT/

<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/70kai/wakuwakuIT/>



◆◆ 有料会告について ◆◆

本会の主催・共催行事および協賛・後援記事の次第書（論文募集，参加案内等）の本誌掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。

記

■掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金（消費税込）	
論文募集／ 参加者募集	国際会議，シンポジウム，ワークショップ，講演会，講習会などの論文募集・参加者募集	1 ページ，1/2 ページまたは 1/4 ページ	（主催・共催）	
			1 ページ	52,500 円
			1/2 ページ	31,500 円
			1/4 ページ	21,000 円
			（協賛）	
			広告として取り扱う	
人材募集	国公立教育機関，国公立研究機関， 企業の人材募集	10 行程度	国公立教育機関，国公立研究機関	21,000 円
			賛助会員（企業）	31,500 円
			賛助会員以外の企業	52,500 円
＊本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り，追加料金 4,000 円で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。				

■申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先，Web 掲載の有無（人材募集のみ）などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

■原稿の書き方

- 行事次第書： A4 判カメラレディまたは PDF ファイル（フォント埋め込み）とします。
 (1 ページ) 天地 260mm × 左右 175mm
 (1/2 ページ) 天地 130mm × 左右 175mm
 (1/4 ページ) 天地 65mm × 左右 175mm
 * A4 判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。

- 人材募集： 次の項目を明記し，E-mail または Fax，郵送にてお送りください。
 [募集職種，募集人員，(所属)，専門分野，(担当科目)，応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]
 * なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

■申込期限

毎月 15 日を締切日とし，翌月号（15 日発行）に掲載します。

■掲載料金

掲載号発行日に料金を請求いたしますので，3 カ月以内にお支払いください。

■掲載申込先

（社）情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係）
 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel (03) 3518-8371 Fax (03) 3518-8375

■論文誌のオンライン出版について■

平成 20 年 4 月から論文誌（ジャーナルおよびトランザクション）は、冊子を廃止して電子図書館の掲載のみとなります。電子図書館のご利用には BookPark 上でユーザ登録（無料）が必要です。詳細は次をご参照ください。

■論文誌のオンライン出版（印刷物の廃止）について：事務手続きのご案内

http://www.ipsj.or.jp/03somu/kinen_jigyō/50anv/d-library/dl-ronbun-200710kaikoku.html

■論文誌等の完全オンライン化の意義

会誌 Vol.48, No.12 巻頭掲載

■電子図書館の利用方法

http://www.ipsj.or.jp/05system/digital_library/index.html

ITの最新情報，研究発表の場の提供を通じて，あなたのお役に立ちます

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

会員募集中!!

今一番新しい研究分野は何か？

IT時代をリードしたい！

そうだ，情報処理学会に入ろう！



申込／照会先 社団法人 情報処理学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail:mem@ipsj.or.jp

～*～*～ 会員サービスのご案内 ～*～*～

会員の皆様に特典としてご利用いただける各種サービスをご案内いたします（本会 Web ページ：<http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/service-ta.html> 参照）。会員特典等にご意見ご要望等がございましたら事務局会員サービス部門（E-mail:mem@ipsj.or.jp）までお寄せください。

ホテル（10～53%割引）

サンルートホテル，ホテル法華クラブ，JR ホテルグループ，東急ホテルズ，プリンスホテル，阪急阪神第一ホテルグループ，JR 東日本ホテルチェーン，グランビスタホテル＆リゾート，都ホテルズ＆リゾート，ホテル京急グループ，ダイワロイヤルホテルズ，エイチアールエヌ，ウィクリーマンション東京

レンタカー（10～51%割引）

ニッポンレンタカー，日産レンタカー，マツダレンタカー

パック旅行（3～7%割引）

日本旅行，近畿日本ツーリスト，トップツアー，京王観光，ジャルパックサービス，エンターティメントエクスプレス

その他（書籍・コンピュータソフト割引販売，レンタルオフィス）

UC 丸善アカデミックカード，バーシティウェブ（教育機関所属の方はアカデミック価格で），デスカット，日本工業技術振興協会

平成 20 年度会誌モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会

会誌「情報処理」をよりよくするために編集委員一同努力を続けておりますが、会誌についての会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。

関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 会誌毎号の本誌巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) から、毎月アンケートに回答する。

- 記事に対する評価
- 記事に対する感想・意見
- 記事テーマの提案
- そのほか全般的な意見・提案など

注) 会誌の記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として 1 年間とします。

対 象 号 会誌 49 巻 4 号～ 50 巻 3 号

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 平成 20 年 2 月 29 日 (金) 必着 * 申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

申込／照会先 情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

平成 20 年度会誌モニタ申込書

宛先：情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax: (03)3518-8375

氏 名

会員番号 ()

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel () -

Fax () -

年 齢 (歳)

業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (e) 学生 (f) その他

職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職
(g) 教官 (大学・大学院) (h) 教職員 (i) 学生 (j) その他

ご意見をお寄せください！

【3月10日頃までにお出しく下さい】

宛 先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれから送付できます)

<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4902.html> Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp

(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

※ ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。
<http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢: (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別: (a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合:
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9-
10. 今月号 (2008年2月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a …大変参考になった b …よい c …普通、どちらとも言えない d …悪い e …読んでいない]

特集: ソフトウェアテストの最新動向

1. ソフトウェアテスト総論 10-1-
2. テストプロセスとテストプロセス改善 10-2-
3. 組合せテストの設計 10-3-
4. UML2.0 Testing Profile / Eclipse Test & Performance Tools Platform の解説 10-4-
5. 並列プログラムのテスト 10-5-
6. Test-Driven Development (テスト駆動開発) 開発手法としてのテスト 10-6-
7. テスト/デバッグ技法の効果と効率 10-7-
- 仮想マシン道しるべ: 仮想マシンの舞台裏 (VMEUウェア) 10-8-
- Internet2 Land Speed Record 長距離 TCP 通信高速化への挑戦 10-9-
- 産学官連携による高度 IT 人材育成の現状と展望 10-10-
- 機械翻訳最新事情: (下) 評価型ワークショップの動向と日本からの貢献 10-11-
- 標準化よもやま話: モノづくりあつての標準化 10-12-
- 研究会千夜一夜: 進化するデジタルドキュメンテーション 10-13-
- 研究会千夜一夜: モバイルコンピューティングの今 10-14-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。

12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマなどありましたらお書きください。

ソフトウェアテストは、ある意味で古くて新しいテーマである。最近、ソフトウェアテストやソフトウェアテストシンポジウム（JaSST）の活動に関する雑誌の創刊、本の発行などが盛んになり、注目を集めている。これは、情報システムや組み込みシステムが普及・定着し、社会基盤として活用されるようになってきたために、それらの不具合が与える影響が拡大しているためであると考えられる。社会基盤の品質に大きく影響を与えるソフトウェアの信頼性や使い勝手などの品質を確保する手段の実践的な技法の1つであるソフトウェアテストが重要になってきている。

このような社会的な要請に応える活動については、電通大の西先生に負うところが大きい。実は、2002年の春に、東京に出かけた折り、西先生の「何かやりたいのですが」という一言が発端となり、2003年1月からJaSSTを始めた。その時点で西先生（実は、電通大に移られる前であったけれども）は、ソフトウェアテスト技術者交流会（TEF）の活動を進められていた。

さらに、一緒にJaSSTを継続していくだけでなく、ソフトウェアテスト技術者資格認定試験（JSTQB）の導入、NPO法人の設立、中・韓との共同事業、と発展してきている。

このようなソフトウェアテストに関する活動を通して、最も強く感じているのは、ビジネスの現場で求められている技術の発展や個人の資質の向上に対して、学会が十分に応えられているだろうかということである。そこで、今回の特集においては、執筆者の皆様がソフトウェアテストの最新動向として技術や課題を解説いただいた。これが、1つの契機となり学会においても、ソフトウェアテストに関する活動が活発になれば幸いである。

最後になりましたが、編集委員の方に大変お世話になりました。ソフトウェアテストの技術的な側面ごとのテーマの抽出や原稿の督促、閲読を行っていただいた。ここに記して謝意を表したい。

（古川善吾／本特集エディタ）

次号（3月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」IPv6 技術の研究開発（産学連携と国際展開の軌跡）

IPv6 システムの相互接続性の確立戦略／IP アドレス管理の最新動向と研究開発に対するインパクト／IP 化の進む分野／IPv6 ルーティングの実態／放送と IPv6

「小特集」複雑ネットワーク科学の拡がり

ネットワーク科学が目指すもの／故障と攻撃の両方に強いつながり方とは？－ネットワークの機能不全と構造最適化－／地域通貨の流通ネットワーク分析 経済活性化とコミュニティ構築のための制度設計に向けて／企業組織ネットワークの解析－戦略的な組織構造と個人間のコミュニケーションの役割／コラム：研究現場の生の声／パネル討論：ネットワーク科学の今後／これから学ぶ方々への書籍紹介

解 説

天才ハッカー伊藤純一郎博士を悼む－V6 時代は彼によって開かれた－ 村井 純

連 載 仮想マシン道しるべ

コラム 研究会千夜一夜／標準化よもやま話

複写される方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、（社）日本複写権センター（同協会より権利を再委託）と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません（社外頒布用の複写は許諾が必要です）。

権利委託先：（中法）学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

E-mail : info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、本会へご連絡ください。

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone : 1-978-750-8400 Fax : 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

E-mail : info@jaacc.jp

Phone : 81-3-3475-5618 Fax : 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone : 1-978-750-8400 Fax : 1-978-646-8600

掲載広告カタログ・資料請求用紙

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	346,500 円 (税抜 330,000 円)	—	—
表 3	288,750 円 (税抜 275,000 円)	—	—
表 4	404,250 円 (税抜 385,000 円)	—	—
表 2 対向	315,000 円 (税抜 300,000 円)	—	—
表 3 対向	278,250 円 (税抜 265,000 円)	199,500 円 (税抜 190,000 円)	162,750 円 (税抜 155,000 円)
前付 1 頁	262,500 円 (税抜 250,000 円)	173,250 円 (税抜 165,000 円)	141,750 円 (税抜 135,000 円)
前付 1/2 頁	—	—	84,000 円 (税抜 80,000 円)
前付最終	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
目次前	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
差込 (A 判 70.5kg 未満 1 枚)	288,750 円 (税抜 275,000 円)		
差込 (A 判 70.5kg ～ 86.5kg 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		
同封 (A 判 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		

■「情報処理」

発 行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 25,000 部
 体 裁 A4 判
 発 行 日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム
 原稿寸法 1 頁 天地 260mm × 左右 180mm
 1/2 頁 天地 125mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 297mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
 アドコム・メディア (株) (Tel/Fax/E-mail は下に記載)

*左記料金はポジフィルム納入による料金です。
 *版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *断切広告は上記料金の 10% 増です。ただし、表 4 は不可。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Fax にて（または E-mail にて必要事項を記入の上）アドコム・メディア (株) 宛にご請求ください。

■「情報処理」 49 巻 2 号 掲載広告（五十音順）

☐ インタフェース……………	表 4	☐ サイエンス社……………	目次前
☐ オー・ティ・ビー……………	前付 3 上	☐ 日本システムアプリケーション……………	前付最終
☐ オーム社……………	表 2 対向	☐ 培風館……………	前付 2 上
☐ 科学技術振興機構……………	前付 3 下	☐ 富士通……………	表 2

☐ すべての会社を希望

■資料送付先

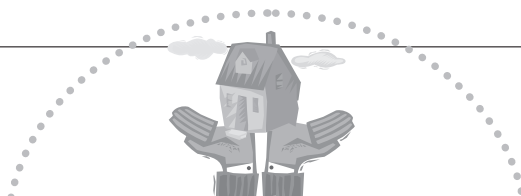
フリガナ お 名 前			
勤 務 先	所属部署		
所 在 地	(〒 -)		
TEL ()	-	FAX ()	-
ご専門の分野			



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア (株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp



賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp>) 「会員サービス」のページからも各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 (社) 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ～ 50 口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

MITSUBISHI
Changes for the Better

三菱電機 (株)

●●● 賛助会員 (10 ～ 19 口)



株式会社NTTデータ
(株) NTT データ

Google

グーグル (株)



NTTコムウェア
NTT コムウェア (株)



(株) NTT ドコモ



日本電信電話 (株)

Microsoft

マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ～ 9 口)

OKI

沖電気工業 (株)



(株) インプレス IT

Panasonic
ideas for life

松下電器産業 (株)

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 100 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙または Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enquete.html>) をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

(社) 情報処理学会 会誌編集部門

〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax (03)3518-8375